

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北陸財務局長

【提出日】 2023年11月10日

【四半期会計期間】 第85期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 今村証券株式会社

【英訳名】 The Imamura Securities Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 今村直喜

【本店の所在の場所】 石川県金沢市十間町25番地

【電話番号】 076-263-5222(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 吉田栄一

【最寄りの連絡場所】 石川県金沢市十間町25番地

【電話番号】 076-263-5222(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 吉田栄一

【縦覧に供する場所】 福井支店
(福井県福井市新田塚一丁目80番36号)

富山支店
(富山県富山市本町6番20号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第84期 第2四半期累計期間	第85期 第2四半期累計期間	第84期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
営業収益	(千円)	1,970,811	2,545,705	3,831,520
(内、受入手数料)	(千円)	(1,944,989)	(2,445,604)	(3,782,454)
純営業収益	(千円)	1,962,403	2,534,748	3,814,412
経常利益	(千円)	504,100	878,663	911,559
四半期(当期)純利益	(千円)	333,631	597,275	608,141
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	857,075	857,075	857,075
発行済株式総数	(株)	5,320,000	5,320,000	5,320,000
純資産額	(千円)	10,767,903	11,591,017	11,065,510
総資産額	(千円)	18,536,002	22,138,418	18,674,069
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	62.72	112.28	114.32
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
1株当たり配当額	(円)	-	-	35.00
自己資本比率	(%)	58.1	52.4	59.3
自己資本規制比率	(%)	789.1	770.3	771.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,331,324	2,040,760	636,576
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	91,014	215,728	354,261
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	186,188	169,190	186,188
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	7,840,550	8,534,033	6,874,129

回次		第84期 第2四半期会計期間	第85期 第2四半期会計期間
会計期間		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	26.93	44.13

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、持分法適用対象会社がないため記載しておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 自己資本規制比率は、金融商品取引法第46条の6第1項の規定に基づき、金融商品取引業等に関する内閣府令の定めにより算出したものであります。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当社は関係会社を有していません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

なお、当社の事業は投資・金融サービス業という単一セグメントであるため、セグメントごとの分析については記載を省略しております。

(1) 財政状態の分析

資産

当第2四半期会計期間末における総資産は前事業年度末に比べ34億64百万円増加し、221億38百万円となりました。

現金・預金が16億59百万円、預託金が15億19百万円、募集等払込金が49百万円、短期差入保証金が46百万円それぞれ増加し、信用取引資産が87百万円、約定見返勘定が61百万円それぞれ減少したこと等により流動資産は31億66百万円増加し、175億90百万円となりました。投資その他の資産が3億74百万円増加し、有形固定資産が75百万円減少したこと等により固定資産は2億98百万円増加し、45億47百万円となりました。

負債

預り金が20億48百万円、受入保証金が5億98百万円、未払法人税等が1億91百万円、未払金が83百万円それぞれ増加し、信用取引負債が82百万円減少したこと等により負債合計は29億38百万円増加し、105億47百万円となりました。

純資産

利益剰余金が4億11百万円、その他有価証券評価差額金が1億14百万円それぞれ増加したことにより純資産は5億25百万円増加し、115億91百万円となりました。

当社は、金融機関等からの借入れは、信用取引にかかる借入れ及び一時的な資金繰りに必要な借入れを除いて行わない方針であります。信用取引での顧客への金銭等の貸付は、証券金融会社から借り入れる他、自己資金を充てており、固定資産の取得についても自己資金で賄っております。前事業年度は、大型の設備投資がなく有形固定資産が減少した一方、投資有価証券の取得等に伴い投資その他の資産が増加し、固定資産は1億85百万円増加しました。当第2四半期累計期間においては、大型の設備投資がなく有形固定資産が75百万円減少した一方、投資有価証券の取得及び値上がり等により投資その他の資産が3億74百万円増加した結果、固定資産は2億98百万円増加しました。

また、利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加により純資産は115億91百万円となりました。

(2) 経営成績の分析

当第2四半期累計期間における我が国経済は、世界的な金融引締めによる海外景気の下振れ等の懸念材料はあるものの、国内の個人消費や雇用及び所得環境が改善する等、景気は緩やかな回復基調が続きました。

国内の株式市場では、日本銀行が金融緩和策の維持を表明したことや米国の著名投資家であるウォーレン・巴菲特氏が日本株への追加投資を示唆したことから、4月の日経平均株価は上昇しました。自社株買いや増配等の株主還元策を発表する企業が相次いだことに加え、海外投資家による日本株買いや為替市場での円安進行等も追い風となり上昇基調は続き、日経平均株価は6月19日におよそ33年ぶりの高値となる33,772円を付けました。しかし利益確定売りに押され上昇の勢いは続かず、その後は膠着状態が続きました。8月には大手格付け会社であるフィッチ・レーティングスが米国債の格付けを引き下げたことで国内株式市場にもリスク回避姿勢が強まり、中国景気への懸念も高まったことで8月18日に31,275円まで下値を切り下げました。その後は中国景気に対する不安が後退したこと等から反発したものの上値は重く、軟調な展開となり当第2四半期を31,857円で終えました。

このような状況の中、当社は地域密着型の対面営業を行う証券会社として、株式営業や債券販売、投資信託販売を中心に営業を展開しました。株式営業においては、「情報シャトル特急便」、「Imamura Report」等当社作成の

情報誌や専門調査機関の作成するレポートを活用した投資情報の提供のほか、お客様向けセミナーの開催等、お客様のニーズにお応えする提案・サポート等を積極的に行いました。債券販売においては、当第1四半期会計期間では他社株転換条項付円建社債や日経平均株価連動円建社債を販売しました。また、当第2四半期会計期間では米ドル建て社債の販売に力を入れるとともに、福井県債も取り扱いました。投資信託販売においては、米国株式配当貴族（年4回決算型）の販売が好調であったほか、新しく取扱いを開始した投資信託も好調で前年同期の販売額を大きく上回りました。また、定時定額に投資信託を買い付ける投信積立やつみたてNISAを積極的に提案し、顧客層の拡大と証券投資普及を図りました。加えて、7月より若年層向けのネット専用サービスとして投資一任運用サービス「かんたん！今村ゴールナビ」の取扱いを開始いたしました。

その結果、当第2四半期累計期間の営業収益は25億45百万円（前年同期比29.2%増）、純営業収益は25億34百万円（同29.2%増）、経常利益は8億78百万円（同74.3%増）、四半期純利益は5億97百万円（同79.0%増）となりました。

当第2四半期累計期間の主な収益、費用の状況は次のとおりであります。

受入手数料

当第2四半期累計期間の受入手数料の合計は24億45百万円（前年同期比25.7%増）となりました。その内訳は次のとおりであります。

・委託手数料

株券に係る委託手数料は14億4百万円（同131.4%増）となりました。受益証券を含めた委託手数料の合計は、14億13百万円（同128.6%増）となりました。

・引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料

引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料は4億53百万円（同59.2%減）となりました。

・募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料

募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料は4億32百万円（同270.7%増）となりました。

・その他の受入手数料

その他の受入手数料は1億46百万円（同48.5%増）となりました。

トレーディング損益

トレーディング損益は77百万円（前年同期比834.5%増）となりました。

金融収支

金融収益が22百万円（前年同期比30.3%増）、金融費用が10百万円（同30.3%増）となった結果、差し引き金融収支は11百万円（同30.2%増）となりました。

販売費・一般管理費

販売費・一般管理費は16億74百万円（前年同期比13.6%増）となりました。

当第2四半期累計期間の受入手数料の合計は24億45百万円（前年同期比25.7%増）で、その商品別内訳は、株券14億6百万円（同130.0%増）、債券4億53百万円（同59.1%減）、受益証券5億66百万円（同167.9%増）、その他19百万円（同43.0%増）であります。当第2四半期累計期間は日経平均株価がおよそ33年ぶりの高値を更新する等、国内株式市場は堅調な展開が続き、その結果、株券部門及び受益証券部門においては前年同期に比べ手数料が増加しました。一方、債券部門においては7月より仕組債の販売を行っていないことから、前年同期に比べ手数料が減少しました。そのため、当社が採用する経営指標である経費カバー率は67.8%（前第2四半期累計期間は92.0%）となり、目標とする80%には届きませんでした。

また、当社は経営戦略の一つとして「新規顧客の獲得」を掲げ、その指標として5年間で15,000口座の新規顧客の獲得を目指し、単年度においては3,000口座以上の獲得を目標としております。当第2四半期累計期間においては、単年度における進捗率が71.1%（前第2四半期累計期間は76.5%）と第2四半期累計期間における目標値である50%を大きく上回ることができました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、期首残高に比べ16億59百万円増加し、85億34百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは20億40百万円の資金増加（前年同期は13億31百万円の資金増加）となりました。これは税引前四半期純利益8億84百万円、減価償却費71百万円を計上したことに加え、預り金の増加20億48百万円、受入保証金の増加5億98百万円、信用取引資産の減少87百万円、未払金の増加81百万円、約定見返勘定の減少61百万円等により資金が増加する一方、顧客分別金信託の増加15億20百万円、信用取引負債の減少82百万円、募集等払込金の増加49百万円、短期差入保証金の増加46百万円、法人税等の支払額1億29百万円等により資金が減少した結果であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出2億6百万円等により2億15百万円の資金減少（前年同期は91百万円の資金減少）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは配当金の支払額等により1億69百万円の資金減少（前年同期は1億86百万円の資金減少）となりました。

当第2四半期累計期間において株式市況は堅調な展開が続いたことから、当社の主要顧客である個人投資家の取引は活発となり増収増益となりました。その結果、税引前四半期純利益を計上したことに加え、預り金や受入保証金の増加等により営業活動によるキャッシュ・フローの資金増加額は20億40百万円となり、前年同期に比べ拡大しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期累計期間には大規模な設備投資はなかったものの、投資有価証券を取得したこと等から資金減少額が前年同期に比べ拡大しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前事業年度の期末配当金を1株当たり35円と据え置いたものの、社用車のセール・アンド・リースバックによる収入があったことから資金減少額が前年同期に比べ縮小しました。

これらの結果、当第2四半期累計期間末の資金は期首に比べ増加し85億34百万円となりました。また、当社では資金を手許現金及び要求払預金に限定しているため、その流動性に懸念はありません。

当社の業績は経済情勢及び市場環境の変動による影響を大きく受けることから、将来に対する予測が困難であります。そのような状況のもと、当社は、今後の事業展開の資金需要及び一時的な業績不振に陥った場合にも柔軟な営業戦略の推進を維持できるように備えるとともに、株主の皆様への継続的かつ安定的な利益還元を目指してまいります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,320,000	5,320,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。 完全議決権株式であり、権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式であります。
計	5,320,000	5,320,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		5,320,000		857,075		357,075

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
今村 直喜	石川県金沢市	1,358,800	25.54
今村コンピューターサービス株式会社	石川県金沢市増泉2丁目5-13	500,040	9.39
今村不動産株式会社	石川県金沢市増泉2丁目5-13	455,280	8.55
今村 九治	石川県金沢市	414,940	7.80
今村証券社員持株会	石川県金沢市十間町25	407,840	7.66
今村 和子	石川県金沢市	203,040	3.81
久保寺 茂男	東京都千代田区	183,900	3.45
吉田 知広	大阪府大阪市淀川区	158,800	2.98
今村 千加子	東京都板橋区	134,400	2.52
今村 之希有	東京都板橋区	130,000	2.44
計		3,947,040	74.19

(注) 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,317,900	53,179	単元株式数は100株であります。 完全議決権株式であり、権利内容に 何ら制限のない当社における標準と なる株式であります。
単元未満株式	普通株式 1,800		
発行済株式総数	5,320,000		
総株主の議決権		53,179	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式36株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 今村証券株式会社	石川県金沢市十間町25	300	-	300	0.00
計		300	-	300	0.00

(注) 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

3 【業務の状況】

(1) 受入手数料の内訳

科目別内訳

(単位：千円)

	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
委託手数料	618,069	1,413,013
（株 券）	(606,789)	(1,404,027)
（受益証券）	(11,280)	(8,986)
引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	1,111,459	453,455
（株 券）	(2,853)	(-)
（債 券）	(1,108,606)	(453,455)
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	116,655	432,435
（株 券）	(10)	(28)
（債 券）	(18)	(57)
（受益証券）	(116,627)	(432,349)
その他	98,804	146,699
（株 券）	(1,593)	(2,024)
（債 券）	(73)	(1)
（受益証券）	(83,692)	(125,447)
（その他）	(13,444)	(19,225)
合 計	1,944,989	2,445,604

商品別内訳

(単位：千円)

	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
株券	611,246	1,406,080
債券	1,108,698	453,514
受益証券	211,600	566,783
その他	13,444	19,225
合 計	1,944,989	2,445,604

(2) トレーディング損益

(単位：千円)

	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
株券	3,626	2,904
債券	3,756	72,456
その他	881	1,869
合 計	8,263	77,229

(3) 株券売買高（先物取引を除く）

（単位：千円）

	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
株券	76,763,913	176,499,078
（受託）	（ 76,591,350）	（ 176,151,759）
（自己）	（ 172,562）	（ 347,318）

(4) 引受け・募集・売出しの取扱高

（単位：千円）

		前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
引受高	株券（金額）	45,784	-
	債券（額面金額）	29,678,800	16,034,500
募集・売出しの取扱高	株券（金額）	46,072	790
	債券（額面金額）	29,693,330	16,070,370
	受益証券（額面金額）	53,397,045	91,222,671

（注）募集・売出しの取扱高は、売出高及び私募の取扱高を含んでおります。

(5) 自己資本規制比率

		前第2四半期 会計期間末	当第2四半期 会計期間末
基本的項目(千円)	(A)	10,274,271	10,959,869
補完的項目(千円)	その他有価証券評価差額金 （評価益）等	493,631	631,148
	金融商品取引責任準備金等	20,668	14,325
	一般貸倒引当金	676	866
	(B)	514,976	646,340
控除資産(千円)	(C)	3,229,059	3,170,663
固定化されていない自己資本(千円)	(D)	7,560,188	8,435,545
	(A) + (B) - (C)		
リスク相当額(千円)	市場リスク相当額	173,384	285,377
	取引先リスク相当額	61,138	83,903
	基礎的リスク相当額	723,551	725,702
	(E)	958,075	1,094,984
自己資本規制比率(%)	(D) / (E) × 100	789.1	770.3

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)並びに同規則第54条及び第73条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」(昭和49年11月14日付日本証券業協会自主規制規則)に準拠して作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	6,874,129	8,534,033
預託金	3,930,724	5,450,668
顧客分別金信託	3,910,000	5,430,000
その他の預託金	20,724	20,668
約定見返勘定	70,340	8,701
信用取引資産	3,060,885	2,973,310
信用取引貸付金	2,983,005	2,867,324
信用取引借証券担保金	77,879	105,986
募集等払込金	133,041	182,646
短期差入保証金	201,693	247,811
前払費用	22,585	34,544
未収収益	88,523	113,724
その他の流動資産	43,891	46,405
貸倒引当金	874	866
流動資産計	14,424,940	17,590,980
固定資産		
有形固定資産	2,940,095	2,865,041
建物(純額)	1,667,616	1,625,114
器具備品(純額)	162,000	145,713
土地	1,094,213	1,094,213
その他	16,265	-
無形固定資産	19,291	17,852
ソフトウェア	9,222	7,820
電話加入権	9,438	9,438
その他	630	593
投資その他の資産	1,289,742	1,664,543
投資有価証券	1,261,960	1,631,430
長期差入保証金	6,425	6,317
長期前払費用	6,204	10,042
その他	15,153	16,755
貸倒引当金	1	1
固定資産計	4,249,129	4,547,438
資産合計	18,674,069	22,138,418

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
トレーディング商品	2	13
デリバティブ取引	2	13
信用取引負債	1,936,674	1,854,231
信用取引借入金	1,805,781	1,729,885
信用取引貸証券受入金	130,892	124,346
預り金	3,902,407	5,951,165
顧客からの預り金	3,195,355	3,928,329
その他の預り金	707,052	2,022,836
受入保証金	647,820	1,246,717
未払金	81,523	165,096
未払費用	35,647	58,899
未払法人税等	141,840	333,002
賞与引当金	226,420	266,440
役員賞与引当金	49,340	49,960
流動負債計	7,021,676	9,925,527
固定負債		
繰延税金負債	98,995	123,248
退職給付引当金	27,764	36,708
役員退職慰労引当金	439,454	447,591
固定負債計	566,214	607,548
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	20,668	14,325
特別法上の準備金計	20,668	14,325
負債合計	7,608,559	10,547,400
純資産の部		
株主資本		
資本金	857,075	857,075
資本剰余金		
資本準備金	357,075	357,075
資本剰余金合計	357,075	357,075
利益剰余金		
利益準備金	125,000	125,000
その他利益剰余金		
別途積立金	8,000,000	8,000,000
繰越利益剰余金	1,209,910	1,620,998
利益剰余金合計	9,334,910	9,745,998
自己株式	278	278
株主資本合計	10,548,781	10,959,869
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	516,728	631,148
評価・換算差額等合計	516,728	631,148
純資産合計	11,065,510	11,591,017
負債・純資産合計	18,674,069	22,138,418

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
営業収益		
受入手数料	1,944,989	2,445,604
委託手数料	618,069	1,413,013
引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	1,111,459	453,455
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	116,655	432,435
その他の受入手数料	98,804	146,699
トレーディング損益	8,263	77,229
金融収益	17,558	22,871
営業収益計	1,970,811	2,545,705
金融費用	8,408	10,957
純営業収益	1,962,403	2,534,748
販売費・一般管理費		
取引関係費	129,166	139,920
人件費	1,058,154	1,221,967
不動産関係費	56,381	74,850
事務費	39,055	35,255
減価償却費	71,880	71,173
租税公課	30,421	38,815
貸倒引当金繰入額	10	8
その他	89,354	92,667
販売費・一般管理費計	1,474,402	1,674,643
営業利益	488,000	860,105
営業外収益	1 16,283	1 20,118
営業外費用	2 182	2 1,560
経常利益	504,100	878,663
特別利益		
金融商品取引責任準備金戻入	55	6,343
特別利益計	55	6,343
特別損失		
投資有価証券評価損	1,700	518
固定資産除売却損	0	-
特別損失計	1,700	518
税引前四半期純利益	502,456	884,488
法人税、住民税及び事業税	168,838	312,440
法人税等調整額	13	25,227
法人税等合計	168,824	287,213
四半期純利益	333,631	597,275

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	502,456	884,488
減価償却費	71,880	71,173
貸倒引当金の増減額(は減少)	10	8
金融商品取引責任準備金の増減額(は減少)	55	6,343
退職給付引当金の増減額(は減少)	9,841	8,943
賞与引当金の増減額(は減少)	15,960	40,020
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,416	8,137
役員賞与引当金の増減額(は減少)	43,600	620
受取利息及び受取配当金	14,059	17,082
支払利息	3,233	3,492
固定資産除売却損益(は益)	0	-
投資有価証券評価損益(は益)	1,700	518
顧客分別金信託の増減額(は増加)	260,000	1,520,000
トレーディング商品の増減額	21	10
信用取引資産の増減額(は増加)	85,700	87,574
募集等払込金の増減額(は増加)	79,534	49,604
短期差入保証金の増減額(は増加)	12,524	46,117
未収収益の増減額(は増加)	3,291	25,200
信用取引負債の増減額(は減少)	74,894	82,442
約定見返勘定の増減額(は増加)	4,659	61,638
預り金の増減額(は減少)	512,847	2,048,758
受入保証金の増減額(は減少)	147,705	598,897
未払金の増減額(は減少)	12,467	81,644
未払費用の増減額(は減少)	1,411	23,152
その他	52,667	15,918
小計	1,438,658	2,156,351
利息及び配当金の受取額	14,059	17,082
利息の支払額	3,214	3,392
法人税等の支払額	118,178	129,280
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,331,324	2,040,760
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	83,812	9,750
無形固定資産の取得による支出	11,472	-
投資有価証券の取得による支出	-	206,086
投資有価証券の売却による収入	3,775	-
差入保証金の差入による支出	116	156
差入保証金の回収による収入	610	264
投資活動によるキャッシュ・フロー	91,014	215,728
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	186,188	186,188
セール・アンド・リースバックによる収入	-	16,997
財務活動によるキャッシュ・フロー	186,188	169,190
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,076	4,063
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,058,198	1,659,904
現金及び現金同等物の期首残高	6,782,352	6,874,129
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 7,840,550	1 8,534,033

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
当座貸越極度額	5,000,000千円	5,000,000千円
借入実行残高	- "	- "
差引額	5,000,000千円	5,000,000千円

(四半期損益計算書関係)

1 営業外収益の内訳は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
受取配当金	13,967千円	16,930千円
為替差益	304 "	-
その他	2,010 "	3,188 "
計	16,283千円	20,118千円

2 営業外費用の内訳は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
為替差損	-	1,514千円
その他	182千円	46 "
計	182千円	1,560千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
現金・預金	7,840,550千円	8,534,033千円
現金及び現金同等物	7,840,550千円	8,534,033千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	186,188	35.00	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	186,188	35.00	2023年3月31日	2023年6月26日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(金融商品関係)

当第2四半期会計期間に係る四半期貸借対照表計上額と時価との差額及び前事業年度に係る貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第2四半期会計期間に係る四半期貸借対照表計上額その他の金額に前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の事業は、投資・金融サービス業という単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
主要な財又はサービス		
株券	611,246	1,406,080
債券	1,108,698	453,514
受益証券	211,600	566,783
その他	13,444	19,225
顧客との契約から生じる収益	1,944,989	2,445,604
その他の収益	25,822	100,101
外部顧客からの営業収益	1,970,811	2,545,705

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	62円72銭	112円28銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	333,631	597,275
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	333,631	597,275
普通株式の期中平均株式数(株)	5,319,664	5,319,664

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月9日

今村証券株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

北陸事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安藤 眞 弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野村 実

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている今村証券株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第85期事業年度の第2四半期会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、今村証券株式会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか

か結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。